**下関市子どもの生活実態調査
調査結果報告書**

**平成 30 年 3 月
下 関 市**

目次

I	調査の概要	1
1	調査目的	1
2	調査内容	1
3	調査方法	1
4	調査期間	1
5	回収結果	1
6	低所得世帯（生活困難層）の推定方法	2
7	報告書の見方	3
II	調査結果の概要	4
1	保護者調査の結果の概要	4
2	子ども調査の結果の概要	8
III	保護者調査の結果	10
1	属性	10
2	生活困難層の状況	12
3	世帯の状況	13
4	子どもの状況	19
5	子どもとのかかわり	37
6	子どもの進路	64
7	子どもの支援ニーズ	68
8	子どもの母親、父親の状況	73
9	地域とのかかわりや子育て支援のニーズ	97
10	世帯の経済状況	105
IV	子ども調査の結果	123
1	属性	123
2	生活習慣の状況	124
3	学校生活の状況	125
4	勉強の状況	129
5	悩みの状況	134
6	人付き合いの状況	139
7	自己肯定感	141
V	現状と課題	151
1	3つの観点からみる本市の生活困難層の現状	151
2	調査結果を踏まえた今後の課題	154
	<参考資料：調査票>	155

I 調査の概要

1 調査目的

子どもの貧困対策について、下関市の実情に応じた具体的な施策を検討するため、子ども及びその保護者の生活実態を把握することを目的とする。

2 調査内容

調査対象者及び件数は下表のとおりで、住民基本台帳から無作為抽出した。

図表 調査対象者及び件数

5歳児の保護者	1,175世帯
小学校5年生の児童とその保護者	1,175世帯
中学校2年生の生徒とその保護者	1,175世帯
17歳（高校2年生相当）の子どもとその保護者	1,175世帯

3 調査方法

郵送法による発送・回収

4 調査期間

平成29年11月24日から平成30年1月19日

5 回収結果

調査対象者	全体 (世帯)	5歳児	小学校5年生		中学校2年生		17歳 (高校2年生相当)	
		保護者	児童	保護者	生徒	保護者	子ども	保護者
発送数	4,700	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175	1,175
有効回答数	1,771	483	493	517	404	414	333	357
有効回答率	37.7%	41.1%	42.0%	44.0%	34.4%	35.2%	28.3%	30.4%

6 低所得世帯（生活困難層）の推定方法

アンケートでは、低所得世帯（生活困難層）の推定について、①低所得、②家計の逼迫、③子どもの体験や所有物の欠如の3つの要素で判定した。詳細は下表のとおりである。

①低所得	③子どもの体験や所有物の欠如
等価世帯所得が厚生労働省「平成28年国民生活基礎調査」から算出される基準未満の世帯 <低所得基準> 世帯所得の中央値 428 万円 ÷ √平均世帯人数 (2.47 人) × 50% = 136.2 万円	子どもの体験や所有物などに関する 16 項目のうち、経済的な理由で、欠如している項目が3つ以上該当 1 海水浴に行く 2 水族館・博物館・美術館などに行く 3 キャンプやバーベキューをする 4 スポーツ観戦や劇場に行く 5 遊園地やテーマパークに行く 6 毎月お小遣いを渡す 7 毎年新しい洋服・靴を買う 8 習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせる 9 学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう） 10 お誕生日のお祝いをする 11 1年に1回くらい家族旅行に行く 12 クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる 13 子どもの学校行事などへ親が参加する 14 子どもの年齢に合った本を購入する 15 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入する 16 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所を用意する
②家計の逼迫	
経済的な理由で、公共料金や家賃を支払えなかった経験、食料・衣類を買えなかった経験などの9項目のうち、1つ以上が該当 1 電話（固定・携帯）などの通信料 2 電気料金 3 ガス料金 4 水道料金 5 家賃や住宅ローン 6 国民健康保険料や国民年金、市民税等 7 家族が必要とする食料が買えなかった 8 家族が必要とする衣服や靴が買えなかった 9 医療機関の受診ができなかった	

<<生活困難層（困窮層・周辺層）と一般層の定義>>

生活困難層	困窮層+周辺層
困窮層	2つ以上の要素に該当
周辺層	いずれか1つの要素に該当
一般層	いずれの要素にも該当しない

(1) 生活困難層の割合

	全体	5歳児	小学5年生	中学2年生	17歳 (高校2年生相当)
生活困難層	28.1%	25.4%	25.0%	31.7%	32.2%
困窮層	11.8%	8.3%	11.0%	13.1%	16.3%
周辺層	16.3%	17.1%	14.0%	18.6%	15.9%
一般層	71.9%	74.6%	75.0%	68.3%	67.8%

(2) 「低所得」「家計の逼迫」「子どもの体験や所有物の欠如」の割合

	全体	5歳児	小学5年生	中学2年生	17歳 (高校2年生相当)
低所得	6.9%	4.8%	6.4%	9.7%	7.3%
家計の逼迫	18.4%	15.5%	17.6%	19.8%	21.8%
子どもの体験や 所有物の欠如	13.7%	12.0%	10.4%	15.9%	18.2%

7 報告書の見方

- 本文及び図中に示した調査結果の数値は百分比(%)で示してある。これらの数値は小数点以下第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100.0%とならない場合がある。
- 2つ以上の回答を要する(複数回答)を求めた質問では、回答比率の合計が100.0%を超えることがある。
- グラフ中の「n」は質問に対する回答数であり、100.0%が何回答に相当するかを示す比率算出の基数である。
- 回答数が少数の場合は、統計上の標本誤差を考慮し、文章中に記載していない。

Ⅱ 調査結果の概要

1 保護者調査の結果の概要

(1) 生活困難層の状況 (P. 12)

- 生活困難層の分類について、困窮層は11.8%、周辺層は16.3%、一般層は71.9%となっている。就学状況別にみると、子どもの年齢が上がるにつれて困窮層の割合も増えている。世帯類型別にみると、母子世帯で困窮層の割合が約5割となっている。

(2) 世帯の状況 (P. 13~)

- 住居の種類について、困難度が高いほど「持ち家」と回答した割合は低くなっている。
- ひと月あたりの家賃について、困窮層では「1万円～3万円未満」、周辺層、一般層では「5万円～10万円未満」と回答した割合が、最も高くなっている。

(3) 子どもの状況 (P. 19~)

- 子どもの健康状態について、『よい』（「よい」と「まあよい」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 子どもの睡眠時間について、困難度が高いほど、睡眠時間が短い子どもの割合が高くなっている。
- 朝ごはんを食べる習慣について、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 晩ごはんを食べる習慣について、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は全体で98.8%となっており、生活困難層の分類別にみても大きな差は見られない。
- お風呂に入る習慣について、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は、困窮層ではやや低くなっている。
- 歯磨きをする習慣について、「毎日・ほぼ毎日」と回答した割合は、困窮層、周辺層で9割を下回っている。
- 子どもが朝食を一人で食べる頻度について、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は子どもの年齢が上がるにつれて高くなっている。生活困難層の分類別にみると、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、一般層で20.4%であるのに対し、困窮層では35.3%となっている。
- 子どもが夕食を一人で食べる頻度について、「よくある」「ときどきある」と回答した割合は、全体では12.9%に対し、生活困難層の分類別では困窮層が24.7%、世帯類型別では母子世帯が29.8%と高くなっている。
- 子どもが一人で食事をすることがないような居場所の利用希望について、「利用させたい」と回答した割合は、困窮層で18.2%と高くなっている。
- 過去1年間の医療機関受診の取りやめの有無について、「あった」と回答した割合は、困難度が高いほど高くなっており、困窮層では3割を超えている。
- 医療機関を受診させなかった理由について、「公的医療保険に加入していたが、医療機関で自己負担金を支払うことができないと思ったため」と回答した割合は、困窮層で26.9%と高くなっている。
- 子どもの不登校の経験の有無について、『ある』（「ある（現在）」と「ある（過去）」を合わせた割合）と回答した割合は、困難度が高いほど高くなっている。
- 子どもの学校の成績について、『よい』（「よい」と「まあよい」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。

(4) 子どもとのかかわり (P. 37～)

- 子どもと保育所・幼稚園・認定こども園、学校の生活の話をするについて、「ほぼ毎日」と回答した割合は一般層で65.7%、周辺層で67.2%、困窮層で54.1%と、困難層で低くなっている。
- 子どもと政治経済・社会問題等のニュースの話をするについて、生活困難層の分類別、世帯類型別で大きな差はみられない。
- 子どもとテレビ番組（ニュースを除く）の話をするについて、「ほぼ毎日」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっている。
- 子どもと一緒に料理をするについて、「めったにない」と回答した割合は困難層が高いほど若干高くなっている。
- 子どもと一緒に外出をするについて、「めったにない」と回答した割合は困難層が高いほど高くなっている。
- 子どもと一緒に遊ぶについて、「めったにない」と回答した割合は困難層が高いほど高くなっている。
- 子どもと海水浴に行くについて、「ある」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっている。
- 子どもと水族館・博物館・美術館などに行くについて、「ある」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「金銭的な理由でない」と回答した割合が16.5%と高くなっている。
- 子どもとキャンプやバーベキューをするについて、「ある」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「金銭的な理由でない」と回答した割合が12.9%と高くなっている。
- 子どもとスポーツ観戦や劇場に行くについて、「ある」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「金銭的な理由でない」と回答した割合が25.9%と高くなっている。
- 子どもと遊園地やテーマパークに行くについて、「ある」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「金銭的な理由でない」と回答した割合が27.1%と高くなっている。
- 子どもに毎月お小遣いを渡すについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が47.1%と高くなっている。
- 子どもに毎年新しい洋服・靴を買うについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が32.9%と高くなっている。
- 子どもを習い事（音楽、スポーツ、習字等）に通わせるについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が55.9%と高くなっている。
- 子どもを学習塾に通わせる（または家庭教師に来てもらう）について、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が73.5%と高くなっている。
- 子どものお誕生日のお祝いをするについて、「している」と回答した割合はいずれの層も9割を超えているが、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が7.6%と高くなっている。
- 子どもと1年に1回くらい家族旅行に行くについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が77.6%と高くなっている。
- 子どもにクリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげるについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が16.5%と高くなっている。
- 子どもの学校行事などへ親が参加するについて、「している」と回答した割合は全体で97.0%、未就学児で99.2%、小学生で98.8%、中学生で97.1%、17歳で91.0%となっており、生活困難層の分類別、世帯類型別にみても、大きな差はみられない。
- 子どもの年齢に合った本を購入するについて、「している」と回答した割合は困難層が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が45.3%と高くなっている。

- 子ども用のスポーツ用品・おもちゃを購入するについて、「している」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が31.2%と高くなっている。
- 子どもが自宅で宿題（勉強）をすることができる場所を用意するについて、「している」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では「経済的にできない」と回答した割合が20.0%と高くなっている。
- 子どもに規則正しい生活習慣を身につけさせるについて、「大変心がけている」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では34.7%となっている。
- 子どもに毎日、朝ごはんを食べさせるについて、「大変心がけている」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では68.2%となっている。
- 子どもに本や新聞を読むようにすすめるについて、『心がけている』（「大変心がけている」と「まあまあ心がけている」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では52.9%となっている。
- 子どもに将来や進路についての話をするについて、『心がけている』（「大変心がけている」と「まあまあ心がけている」を合わせた割合）と回答した割合は困窮層、周辺層、一般層いずれも7割を超えており、大きな差はみられない。
- 子どもに勉強を教えるについて、『心がけている』（「大変心がけている」と「まあまあ心がけている」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、困窮層では46.5%となっている。

（5）子どもの進路（P. 64～）

- 希望する子どもの最終学歴について、「大学・短期大学」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっており、「高校」と回答した割合は困難度が高いほど高くなっている。
- 希望通り進学できると思うかについて、「思う（進んだ）」と回答した割合は困窮層で44.3%、周辺層では49.3%となっており、一般層（61.8%）とは差がみられる。
- 希望通り進学できると思わない理由について、困窮層では「経済的な余裕がないから」と回答した割合が7割を超えている。

（6）子どもの支援ニーズ（P. 68～）

- 無料で勉強を教えてもらえる場所の利用希望について、『利用したい』（「利用したい」と「どちらか」というと利用したい」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど高くなっている。
利用したい場所について、「住んでいる中学校区内」と回答した割合が最も高い。
利用したい頻度について、「週に1～2回程度」と回答した割合が最も高い。
利用したい時間帯について、「平日の学校が終わってから18時まで」と回答した割合が最も高い。

（7）子どもの母親、父親の状況（P. 73～）

- 父親の最終学歴について、「大学卒業」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 母親の最終学歴について、「大学卒業」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 父親の就業状況について、「勤め（正社員）」と回答した割合が困窮層では低くなっている。
- 母親の就業状況について、「勤め（正社員以外）」と回答した割合が困窮層で高くなっている。
- 父親の収入状況について、「300万円未満」と回答した割合は困難度が高いほど高くなっている。
- 母親の収入状況について、「300万円未満」と回答した割合は困難度が高いほど高くなっている。
- 父親の健康状態について、『よい』（「よい」と「まあよい」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。

- 母親の健康状態について、『よい』（「よい」と「まあよい」を合わせた割合）と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 父親が心おきなく相談できる相手の有無について、「いる」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 母親が心おきなく相談できる相手の有無について、「いる」と回答した割合は困難度が高いほど低くなっている。
- 父親の相談相手、相談したい相手について、「配偶者」と回答した割合が最も高く、また困窮層はその割合が低くなっている。
- 母親の相談相手、相談したい相手について、「配偶者」と回答した割合が最も高く、また困窮層はその割合が低くなっている。
- 父親の成人前の経験について、「親が離婚した（未婚も含む）」、「生活が経済的に困っていた」、「母親または父親が亡くなった」の順で回答した割合が多い。また、「いずれも経験したことがない」は全体では60.2%となっているが、困窮層では「いずれも経験したことがない」34.1%と低くなっている。
- 母親の成人前の経験について、「親が離婚した（未婚も含む）」、「生活が経済的に困っていた」、「母親または父親が亡くなった」の順で回答した割合が多い。また、「いずれも経験したことがない」は全体では68.5%となっているが、困窮層では「いずれも経験したことがない」57.6%と低くなっている。

(8) 地域とのかかわりや子育て支援のニーズ (P. 97~)

- 知っている子育て支援サービスについて、「児童手当」と回答した割合が全体で95.8%と最も高く、次いで「ふくふくこども館」85.0%、「出産育児一時金」83.7%の順となっている。困窮層では「児童手当」92.9%、「ふくふくこども館」76.5%、「出産育児一時金」77.1%となっている。
- 必要とする支援について、「子どもの就学にかかる費用が援助されること」と回答した割合が全体で44.2%と最も高く、次いで「子どもが病気の際に預けることができる病児保育の充実」12.8%、「一時的に必要となる資金が借りられること」10.7%の順となっている。困窮層では「子どもの就学にかかる費用が援助されること」が77.1%、「一時的に必要となる資金が借りられること」が32.9%で、一般層と比べ高くなっている。
- 近所付き合いの程度については、「ほとんど付き合いはない」と回答した割合が困窮層で10.6%と高くなっている。

(9) 世帯の経済状況 (P. 105~)

- 主に家計を支えている人について、「父親」と回答した割合が全体で83.7%と最も高いが、困難度が高いほど「父親」と回答した割合が低くなっている。
- 年間収入（税込）の合計額について、困窮層では「300万円未満」と回答した割合が42.9%と高くなっている。
- 家計の状況について、「収入の方が支出より多い」と回答した割合が全体では41.8%となっており、子どもの年齢が上がるにつれて低くなっている。生活困難層の分類別では困窮層が15.9%、世帯類型別では母子家庭が17.9%と低くなっている。
- 収入の方が支出より少ない世帯での、最も負担になっている費用について、「住宅ローン」、「子どもの教育費」と回答した割合が全体でそれぞれ21.7%と最も高く、次いで「食費」16.0%となっている。
就学状況別にみると、未就学児、小学生では「住宅ローン」が最も負担となっているが、中学生、17歳になると「子どもの教育費」の割合が高くなっている。困窮層では「子どもの教育費」と回答した割合が最も高くなっている。

- 収入の方が支出より少ない世帯での、子どもの将来のための貯蓄の有無について、困難度が高いほど「貯蓄をしたいが、できていない」と回答した割合が高くなっている。
- 経済的理由で子どもの文具や教材を買えなかった経験の有無について、『あった』（「よくあった」と「ときどきあった」を合わせた割合）と回答した割合は困窮層で44.7%と高くなっている。
- 現在の暮らしの状況について、『苦しい』（「大変苦しい」と「やや苦しい」を合わせた割合）と回答した割合は困窮層で95.9%、周辺層で79.2%と困難度が高いほど高くなっている。
- 経済的な理由による経験について、「家族が必要とする衣服や靴が買えなかった（高価な衣服や貴金属・宝飾品は含まない）」と回答した割合は全体で9.0%となっており、「いずれにもあてはまらない」は75.3%となっている。全ての項目において、困難度が高いほど回答した割合が高くなっている。
- 受給している手当について、「児童手当」と回答した割合は全体で81.8%と最も高く、次いで「就学援助制度」16.8%となっている。生活困難層の分類別では「児童手当」はいずれの層も大きな差はみられないが、「就学援助制度」では困窮層で50.0%と高くなっている。
- 公的相談窓口の認知度について、「保健所」と回答した割合は全体で74.6%と最も高く、次いで「児童相談所」61.3%となっている。困窮層では「保健所」58.8%、「児童相談所」52.4%と全体の割合より低くなっており、また、困難度が高いほど「知っているものはない」と回答した割合が高くなっている。

2 子ども調査の結果の概要

(1) 生活習慣の状況 (P. 124)

- むし歯の有無について、『ある』（「ある（治療中）」と「ある（治療していない）」を合わせた割合）と回答した割合は全体では15.0%となっており、困難度が高いほど高くなっている。

(2) 学校生活の状況 (P. 125～)

- 学校生活が楽しいかについて、『楽しい』（「楽しい」と「まあまあ楽しい」を合わせた割合）と回答した割合は全体で86.8%となっているが、困窮層では79.7%と低くなっている。
- 学校に遅刻する頻度について、「遅刻はしない」と回答した割合は全体で89.8%となっているが、困窮層では81.1%と低くなっている。

(3) 勉強の状況 (P. 129～)

- 学校がある日の1日あたりの勉強時間について、「まったくしない」と回答した割合は全体では8.5%となっているが、困窮層では19.7%と高くなっている。
- 学校がない日の1日あたりの勉強時間について、「まったくしない」と回答した割合は全体では17.1%となっているが、困窮層では32.3%と高くなっている。
- 学校の勉強の理解度について、『わかる』（「よくわかる」と「だいたいわかる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では81.5%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では74.0%となっている。
- 希望する最終学歴について、「大学・短期大学」と回答した割合は全体では41.1%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では26.3%となっている。

(4) 悩みの状況 (P. 134～)

- いやなことや悩んでいることについて、「いやなことや悩んでいることがない」と回答した割合は全体で51.4%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では39.1%と低くなっ

ている。また、「進学・進路のこと」と回答した割合は困難度が高いほど高くなっている。

- いやなことや悩みの相談相手について、「お父さん・お母さん」と回答した割合が最も高く、全体では62.8%となっているが、困窮層では56.4%と若干低くなっている。

(5) 人付き合いの状況 (P. 139~)

- 周りにいる友だちについて、「信頼できる友だちがいる」と回答した割合は77.3%、「気軽に相談できる友だちがいる」が69.3%となっている。困窮層では「信頼できる友だちがいる」と回答した割合は66.9%、「気軽に相談できる友だちがいる」は62.4%と若干低くなっている。

(6) 自己肯定感 (P. 141~)

- 自信の有無について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では59.1%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では45.8%となっている。
- 大人への信頼度について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では76.5%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では66.9%となっている。
- 将来の夢や目標の有無について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では76.5%となっているが、困窮層では72.9%と若干低くなっている。
- 自分のよいところの有無について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合が全体では79.2%となっているが、困窮層では68.4%と低くなっている。
- 今の自分が好きかについて、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では66.7%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では58.6%となっている。
- 自分自身に満足しているかについて、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では59.4%となっているが、困窮層では55.6%と若干低くなっている。
- 自分は人並みの能力について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では70.5%となっているが、困難度が高いほど低くなっており、困窮層では56.3%となっている。
- 自分はダメな人間だと思うことがあるかについて、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では44.5%となっているが、困窮層では48.8%と若干高くなっている。
- 誰にも負けないもの（こと）の有無について、『あてはまる』（「あてはまる」と「どちらかというにあてはまる」を合わせた割合）と回答した割合は全体では61.9%となっているが、困窮層では54.1%と低くなっている。